

四十五

沼田郡八木村竹川下シ之儀御願書附

沼田郡

覚

八木村

一 当村百姓共持藪之内、竹虫入真枯之類為手入伐り払

仕候処、当所ニ 而ハ難捌さばき、廣嶋江積下シ売之義ハ素リ之御法度

ニ御座候得者、藪持之者共相困り居申候、依而痛竹伐り払

之分、何卒歩銀被為召上、当年亥年迄五ケ年之間、

廣島川下シ之義御赦免被為成遣被下候ハ、難有

仕合ニ可奉存候、歩銀之義ハ被為仰付次第取約メ御日限

急度御上納可仕候、尚藪所荒透不申様私共時々見廻り仕

何時御用竹被為仰付候共、聊御差問之義ハ仕間敷候、

且又右ニ付少シも猥みだりケ敷義不仕様厚取計可申候間、御格

外之御慈悲を以真枯痛竹之類廣嶋川下シ之義

右年限中御免許被為仰付被下候ハ、一統難有仕合

可奉存候、此段書付を以御願奉申上候、已上

午二月

当分庄屋

正三郎

庄屋

忠左衛門

与頭

平左衛門

同

弥五郎

同

善右衛門

付紙

花房清之丞様

石川金弥様

本文川下シ仕候節ハ竹相改メ切手書渡シ

之義も庄屋忠左衛門受籠そりやく略無御座

候様取計可申与奉存候、此段付紙を以

奉申上候

真枯(まがれ) 木が完全に枯れてしまった状態
歩銀 取引額に応じた割合の手数料